

地域イノベーション戦略支援プログラム  
(研究機能・産業集積高度化地域)

【和歌山県特産農産物を活用した健康産業イノベーション推進地域】

平成25年度 年度報告書概略版

公益財団法人わかやま産業振興財団  
理事長 島 正博

平成26年4月

# I 事業実施状況

## (1) 目標の達成状況

### <数値目標>

年度計画書における目標設定		今年度の 実績	備考
指標	数値		
特許出願件数	2件	4件	特許出願以外に、梅酢ポリフェノールの製造にかかわる特願 2008-038748 の審査対応をし、特許査定(特許第 5282932 号)となった(平成 25 年 4 月 6 日)。
査読論文数	2件	16件	県産果樹に関する論文件数 6、それ以外の件数 11 招聘研究者執筆件数 12、招聘研究員以外の執筆件数 5
参画企業数 (コンソーシアム 件数)	23社 (1件)	28社 (3件)	農物有用化合物活用研究会に参画 事業化を目指す研究部会として、「過熱水蒸気加工」「山椒」「八升豆」が活動中
提案公募等応募 案件 (内採択件数)	5件以上 (3件)	11件 (9件)	平成 25 年度農林水産省予算概要 農林水産業・食品産業科学研究推進事業 実用技術開発ステージ 重要施策対応型「ウメ新品種「露茜」の用途開発に関する研究および機能性評価」の採択を受け、梅新品種の機能性研究に着手した。

### <総評>

特産果樹の機能性を活かした「モノづくり」を進めると共に、地域住民のライフスタイル（食と運動）と健康特性研究を結びつけた健康長寿づくりを進め、同時にそれらの知見を活かした「健康産業の創出」を目的に、医農連携及び地域連携コーディネータに加え、医学コーディネータを新たに配置し、プロジェクトディレクターのもとプロジェクトを推進した。

平成25年度の主な活動は、招聘研究者が中心に行っている特産果樹の機能性研究とその活用等について研究進捗会議や外部評価委員会で再吟味し、効能評価に関する研究開発を基本に個々の研究者の役割を明確にすると共に情報共有と研究連携の強化を図った。また、梅酢ポリフェノールの効能検証については、血圧低下作用のヒト介入試験を実施（現在解析中）すると共に、研究連携により新たに抗ウイルス活性を見出した。なお、梅酢ポリフェノールは供給体制の確立と製品化への道筋を明確化し、関連企業へのPR、サンプル提供を行い、試作段階へと移行させた。梅酢ポリフェノール以外では、梅の新品種である露茜を利用した新たな研究開発が、農林水産省「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」に採択され、平成25年度から3年間、新たな用途開発を実施することになった。

また、機能性を活用する或いは保持させる食品加工技術等を開発することで商品の高付加価値化を目指す「農産物有用化合物活用研究会」を5回開催し、新たな技術情報や機能性食品開発動向、関連規制等に関する情報共有化を図った。さらに、八升豆については、研究部会を開催し、開発のための具体的方針について検討し、農水省の競争的資金に提案した。（結果は採択まで至らなかった。）また、企業間の協働体制を図るため素材を対象とした技術や中間品の開発を半公共的なJAや組合と戦略的に取り組んでいる。

一方、食と運動を活かした元気シニア社会の創出に向けては、健康寿命延伸面から捉え「民、学、官（商工と福祉保健）」からなる「実務連携会議」を11回開催し、地域で取り組まれている活動や健康特性に関する研究を継続的に活かせる仕組みの全体構想とその企画化について青写真を作った。また、介護予防、健康づくりを支える為の健康特性に関する研究については、県内3箇所ではコホート研究を行うと共にシニアエクササイズ推進リーダーの育成は県内6箇所で行った。また、先進県の取組みを調査研究し事業に反映している。

国際動向調査ユニットによる情報収集に関しては、農産物に含まれる有用成分に関する情報収集を行い、その結果を農産物有用化合物活用研究会にて報告を行った。

全般的な取り組みとして、当該プロジェクトの活動を外部にアピールし、情報収集を行い交流・連携を広げるために、外部展示会への出展、シンポジウム、成果発表会の開催を行うと共に、積極的に他地域のイノベーションのイベントにも参加した。

## （2）全体計画実施状況

### ○研究開発テーマ

地域イノベーション戦略の中核を担う研究者の集積

- ①健康長寿を指向した和歌山県特産果実由来の消化管機能改善成分の探索と機能解明  
(近畿大学生物理工学部 教授 芦田 久)
- ②和歌山県の特産果実に含まれる二次代謝産物の利用技術の開発  
(近畿大学生物理工学部 教授 尾崎嘉彦)
- ③和歌山県特産農産物からの「ヒトの免疫作用に効果を及ぼす食品由来の機能性物質」の探索  
(近畿大学生物理工学部 講師 永井宏平)
- ④植物由来保健機能成分による脂質代謝改善、糖尿病予防に関する研究  
(和歌山県立医科大学第1内科学 特別研究員 竹島 健)

地域イノベーション戦略実現のための人材育成プログラムの開発及び実施

- ① 健康寿命イノベーション戦略実現のための人材育成プログラムの開発及び養成  
(和歌山大学教育学部 特任助手 木場田昌宜)
- ② 健康寿命イノベーション戦略実現のための人材育成プログラムの開発及び養成  
(和歌山県立医科大学 健看護学部講師 岡 檀)

## 【取組結果概要】

### i) 国補助金による実施内容

#### a) 地域の戦略の中核を担う研究者の集積(近畿大学、和歌山県立医科大学)

和歌山県特産果実由来の機能性解明について、都市エリア産学官連携促進事業から継承した梅酢ポリフェノールの、ゲル濾過分画品についてHPLCによる構成成分の分析を行い、ポリフェノールの大部分は少糖類との配糖体として存在することが確認されると共に、これらには、クロロゲン酸、ネオクロロゲン酸、プルノース類、その他の不明成分が含まれることを明らかにした。これらの検討から、コーヒー酸の大部分はクロロゲン酸類として、一方、p-クマル酸の1/3はプルノース類として、それぞれ存在することが明らかになった。

また、梅とすももの交雑種の新品種である露茜についても、HPLCによる分析で、追熟過程における赤色素アントシアニンの分子種毎の変動を明らかにした。さらに、梅酢ポリフェノールで用いたHPLCによる分析法により、ポリフェノールカルボン酸類の組成についての基礎的データが得られた。

また、生活習慣病に関わるさまざまな *in vitro* 試験系において、評価系の確立と、梅酢ポリフェノール及び、その構成成分の評価が進められ、25年度は、それぞれの評価系において、動物試験での評価にステップアップできる成果が得られた。

消化管微生物に対する作用では、これまでに確立した *in vitro* 試験系を糖質を制限するよう改変した試験系において、梅酢ポリフェノールが、腸内善玉菌であるビフィズス菌の増殖を促進することを確認できた。

脂質代謝(脂肪細胞のアディポカイン産生に及ぼす作用)の評価においては、レジスチンプロモーターと結合したルシフェラーゼを安定的に発現する評価系及びリアルタイムPCRにより評価する系を確立し、梅酢ポリフェノールの構成成分であるカフェ酸にレジスチン産生の抑制効果があることを確認した。

抗炎症作用(マクロファージ活性化抑制作用)の評価では、より生体内の状況を反映していると考えられるマクロファージと脂肪細胞の共培養の試験系を確立し、梅酢ポリフェノール及びその構成成分に、マクロファージ活性化の指標となる炎症性メディエーターNO産生の抑制効果があることを確認できた。

#### b) 地域イノベーション戦略実現のための人材育成プログラムの開発及び実施

(和歌山県立医科大学、和歌山大学)

##### 和歌山県立医科大学

医学的に効果が検証されている食品成分を活用したメニューを考案するため、コホート研究を県北部のかつらぎ町、県中南部のみなべ町、県南部の上富田町において実施し、累積約3,000人の住民の詳細な健康状態と食を中心とした生活習慣を把握し統計的な解析を行った。

これら結果をふまえ、自治体行政関係者、保健医療従事者らと協議を行い、また、一般住民への啓発を行った。

##### 和歌山大学

【食と運動を融合させた高齢者に特異的で有効性の高い「ハイパワー高齢者自立支援プログラム」の開発】

運動と運動後の食事摂取のタイミングおよび栄養バランスの重要性について検討を行った。特にタンパク質摂取(バリン・ロイシン・イソロイシン;分枝鎖アミノ酸(branched-chain amino acids:BCAA)を摂取し、トレーニング効果に及ぼす影響について比較研究を実施した。その結果、高齢者の健康度や体力は、運動のみを実施した群に比べて、食事と運動のコンビネーションを重視した群の方が、血圧や体力の改善率が高くなり、さらに筋肉の左右バランス、体調の改善率が高くなる可能性が示唆された。また運動プログラムの普及を担う専門性の高いエキスパートインストラクターを養成し、さらに地域で実践的に活動する高齢者のリーダー(「セカンドインストラクター」)を育成するための指導者用運動マニュアルを完成させ指導した。平成25年度は59名のエキスパートインストラクターおよび124名のセカンドインストラクターを養成した。

#### c) 大学等の知のネットワーク構築(公益財団法人わかやま産業振興財団)

特産果樹の機能性研究の「研究テーマ進捗会議」を通して関連研究員の情報共有を図りながら、「農産物有用化合物活用研究会」を通して、商品化、事業化に展開すべく、知の連携と産学官の地域連携を結びつける体制を構築し推進した。また、健康食品や健康づくりを核とする地域活性化(健康産業創出)を継続的に運営する仕組みとして、知の集積と発信ができる健康イノベーションセンター(HIC)の構想企画化を進めた。

### ii) 地域資金による実施内容

#### a) 先駆的産業技術研究開発支援事業(和歌山県)

和歌山県産業技術基本計画に基づき、全国あるいは海外で今後高いニーズが見込まれる先駆的産業分野において、新技術の創出と実用化を図るため、県内企業等が取り組む研究開発への支援を行っ

ている。「植物工場における施肥制御による葉菜類に含まれるポリフェノール含有量の増加技術の開発」のテーマ等、計4研究テーマについて助成を行った。

b)知的財産戦略支援事業((公財)わかやま産業振興財団)

中小企業の研究開発により発生する知的財産権を効率的に保護・活用するために、中小企業の知財活動を支援するアドバイザー等の人件費。

c)未来企業育成事業((公財)わかやま産業振興財団)

県内中小企業の研究開発支援として、産学官の活発な人事交流と情報交換等を通じて事業化への芽を育むとともに、連携体を実施する共同研究を支援することなどにより、新事業創出を推進している。「八升豆に含まれるL-DOPAを有効活用する加工技術の開発」のテーマ等、計2研究テーマについて助成を行った。

d)新技術育成のための情報活用支援事業((公財)わかやま産業振興財団)

先行技術等を調査するために、STN、NRIサイバーパテントシステム、Gサーチ、トムソン・ロイター等の商用(企業情報、特許・商標情報等)データベース利用環境を整備し、情報面から支援した。

e)専門技術研修会((公財)わかやま産業振興財団)

県内の様々な産業分野における専門技術の動向、専門知識等の普及と参加企業相互の情報交換を図るため、公設試験研究機関、大学等の研究員が主宰する研究会の運営に係る活動経費の一部を助成した。

f)わかやま中小企業元気ファンド事業((公財)わかやま産業振興財団)

中小企業者等の育成と地域産業の振興を図るため、本県の特徴ある地域資源を活用した新商品・新サービスの開発、中小企業者と大学・高専・公設試験研究機関との共同研究で生まれた成果の事業化(新製品開発等)などを支援した。「じゃばら果皮液体エキスの粉末化とその機能性解明による食品素材への応用」のテーマ等、計19研究テーマについて助成を行った。

g)わかやま農商工連携ファンド事業((公財)わかやま産業振興財団)

農林漁業者と中小企業者が連携し、それぞれの経営資源を有効に活用して行う新商品・新サービスの開発、販路開拓などの事業活動に対して支援した。「紀州癒しの「和」アロマ(エッセンシャルオイル)の開発」のテーマ等、計2研究テーマについて助成を行った。

h)機能性医薬食品探索講座(和歌山県立医科大学)

保健機能食品開発に取り組む地域企業からの寄附金による研究開発を行った。

i)地域イノベーション事業に関連する教員の人件費(近畿大学)

大学と兼務して地域イノベーション戦略支援プログラム事業に関連する教員の人件費。

## ②今後の課題

平成26年度では、招聘研究は、果樹機能性の効能評価及び作用メカニズム解明について、梅酢ポリフェノールを対象に進展させると共に効能の有望なものについてヒト介入試験を実施する。また、その他の農産物(果樹)含有成分の新たな機能性についても引き続き探索を行う。

農産物(主に果樹)に含まれる有用化合物を用いた製品開発、それに続く地域産業活性化に向けては、先の都市エリア産学官連携促進事業で開発された「梅酢ポリフェノール」を主に製品化することを引き続き実施する。特に製品化に比較的時間を要しないと考えられる「あきらか食品」への用途展開と製品設計やその機能性評価に時間を要するサプリメント、トクホ製品開発を区別して進め、実用化の可能性が期待されるものを重点的に取り組む。

また新規な加工技術を農産物(主に果樹)に適用することで生まれる機能性を有効活用した製品化を目指して、県内企業で構成される「農産物有用化合物活用研究会」とその中で製品化を具体化させる研究部会を活性化させ、新規な加工技術の確立とそれによる製品化を実施する。その研究部会からの製品化を加速させる開発資金獲得に向け、国、県等提案公募型予算への課題提案を積極的に進める。またこの研究会では、すでに市販されている食品中の機能性成分の含有量を表示する活動を行い、食品のイメージアップを図ることも実施する。

食と運動を活かした元気シニア社会の創出を目指して、健康寿命延伸面から捉え「民、学、官(商工と福祉保険)」からなる「実務連携会議」を平成25年度に11回開催し、地域で取り組まれている活動や健康特性に関する研究を継続的に活かせる仕組みの全体構想(人材育成プログラムの実行を含む。)とその企画化について健康イノベーション(HIC)を構想化した。HICのモデル検証を目的に、食や運動あるいはライフスタイルと健康特性の調査研究を推進し、特性データベースの蓄積を図り、健康づくりにフィードバックしていく。また、これらの知見を活かし、高付加価値なモノづくりの知見と合せて健康産業の創出に繋いでいく。

## 【別添資料1】

## 実績一覧表

## 1. 地域イノベーション戦略の推進に向けた活動状況

項 目	件 数
(1) 本事業のマネジメント従事者数 ○中核機関 (うち、専任)	9人 (5人)
(2) 研究開発に参加する大学・公的機関の機関数 (うち、海外機関)	11機関 (0機関)
研究開発に参加する大学・公的機関の研究者数 (うち、外国人研究者数)	45人 (0人)
(3) 研究開発に参加する企業数 (うち、本社が海外にある企業)	20社 (0社)
研究開発に参加する企業の参画研究者数 (うち、海外企業研究者数)	45人 (0人)
上記企業のうち、自社の既存事業以外の新規事業に進出するために参加した企業数 (うち、地域内企業数)	0社 (0社)
(4) 研究開発に関与した学生の数 (うち、高専・短大生) (うち、学部生) (うち、修士課程学生) (うち、博士課程学生) (うち、留学生)	24人 ( 人) (21人) (3人) ( 人) ( 人)
(5) 本事業実施にあたって雇用した人数 ○研究従事者 (うち、専任)	4人 (4人)
○マネジメント従事者等、研究従事者以外の者 (うち、専任)	1人 (1人)
(6) 本事業のために設置された研究会等 (うち、本事業開始後に新たに設置された件数)	3件 (3件)
(7) 研究開発参加機関以外で研究会等に参加している機関	17機関
(8) 当該年度における海外機関との連携数 (MOU・共同研究契約などを締結したものに限り)	0件
備考	

2. 知的財産創出及び経済活動の状況

項 目		件 数	
特許等	(1)国内特許	出願 (その他、地域資金による事業の成果)	2件 (他2件)
		取得 (その他、地域資金による事業の成果)	1件 (他0件)
	(2)海外特許	出願 (その他、地域資金による事業の成果)	0件 (他0件)
		取得 (その他、地域資金による事業の成果)	0件 (他0件)
	(3)その他の知的財産権	出願 (その他、地域資金による事業の成果)	0件 (他0件)
		取得 (その他、地域資金による事業の成果)	0件 (他0件)
	(4)ノウハウ (その他、地域資金による事業の成果)		0件 (他0件)
	(5)特許等の実施許諾 (その他、地域資金による事業の成果)		1件 (他0件)
	(6)当該事業により生じた試作品 (その他、地域資金による事業の成果)		4件 (他1件)
	(7)当該事業により生じた新商品 (その他、地域資金による事業の成果)		1件 (他0件)
(8)当該事業により生じた新事業 (その他、地域資金による事業の成果)		0件 (他0件)	
(9)当該事業により生じた新企業 (その他、地域資金による事業の成果)		0件 (他1件)	
(10)本事業の成果による収入(売上、特許等の実施料収入等) (うち、特許による実施料収入)		0円 (0円)	
(その他、地域資金による事業成果から生じた収入)		(他0円)	



3. 本事業に係る成果の外部への発信

項 目		件 数
(1)プレス発表		1件
(2)成果発表会		8回
(3)論文	国内誌	論文数 ※査読済論文 3件
	国際誌	論文数 ※査読済論文 14件
(4)プロシーディング等		1件
(5)学会・会議発表	国内学会・会議 (うち学会)	48件 (29件)
	国際学会・会議 * 国際学会のうち	12件
	(うち査読有り)	(8件)
	(うち招待講演) (うち口頭発表)	(1件) (3件)
(6)国際的なシンポジウム等の開催件数		0件
国際的なシンポジウム等への参画件数		0件
備考		

4. 本事業がもたらした効果など

項 目		件 数
掲載／放送 (地域の採択に係るものは除く)	(1)新聞	10件
	(2)テレビ	0件
	(3)雑誌	0件
(4)受賞		0件
(5)成果が他事業に採択		1件
(6)外部団体の来訪 (文部科学省 産業連携・地域 支援課を除く)	国内団体	のべ1件
	海外団体	のべ0件
備考		

5. 事業参加者等の参加後の動き等

項 目	件 数
(1) 事業に関与した学生の卒業後進路(進学は含まない) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域内の大学、公的機関</li> <li>・ 地域外の大学、公的機関</li> <li>・ 地域内の企業</li> <li>・ 地域外の企業</li> <li>・ その他</li> </ul>	0人 0人 2人 1人 0人
(2) 事業に参加した雇用研究員の事業従事期間終了後の進路 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域内の大学、公的機関</li> <li>・ 地域外の大学、公的機関</li> <li>・ 地域内の企業</li> <li>・ 地域外の企業</li> <li>・ その他</li> </ul>	0人 0人 0人 0人 0人
(3) 事業から脱退した参画大学、公的機関の数 <b>【理由】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 参加目的達成のため</li> <li>2 参加目的達成困難のため</li> <li>3 その他</li> </ul>	0機関  機関 機関 機関
事業から脱退した参画企業数 <b>【理由】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 参加目的達成のため</li> <li>2 参加目的達成困難のため</li> <li>3 その他</li> </ul>	0社  社 社 社
備考	

## 2. 知的財産創出及び経済活動の状況

### (1) 国内特許

出願 4 件

#### <特許取得>

No1.発明の名称:ポリフェノール抽出物の製造方法、骨粗鬆症予防剤、糖質消化酵素阻害剤、これらを用いた機能性組成物、およびこの機能性組成物を含む、食品組成物、特定保健用食品組成物、医薬部品外品組成物、医薬組成物

○出願日:平成 20 年 2 月 20 日

○取得日:平成 25 年 4 月 8 日

○特許番号:特許第 5282932 号(P5282932)

○発明者名(寄与率):三谷隆彦 他 10 名

○出願人(持ち分):近畿大学(45/100)

和歌山県(45/100)

和歌山県農産物加工研究所(10/100)

○備考:

### (2) 海外特許

該当なし

### (3) その他の知的財産権

該当なし

### (4) ノウハウ

該当なし

### (5) 特許等の実施許諾

No1.発明の名称:ポリフェノール抽出物の製造方法、骨粗鬆症予防剤、糖質消化酵素阻害剤、これらを用いた機能性組成物、およびこの機能性組成物を含む、食品組成物、特定保健用食品組成物、医薬部品外品組成物、医薬組成物

○出願日:平成 20 年 2 月 20 日、取得日:平成 25 年 4 月 8 日

○発明者名(寄与率):三谷隆彦 他 10 名

○出願人(持ち分):近畿大学(45/100)

和歌山県(45/100)

和歌山県農産物加工研究所(10/100)

○許諾の相手方:株式会社サンアクティス

○収入:実施料の 5%

○備考:

### (6) 当該事業により生じた試作品

No1.試作品の名称:梅酢ポリフェノール

○具体的内容:梅酢ポリフェノールの和歌山県内での原体供給体制を確立するために、県内企業で試作を行った。その結果、県内企業で梅酢ポリフェノールの生産ができる目処を得た。

- ターゲット市場及びその規模:未定であるが梅酢ポリフェノールを用いた商品開発を種々行っている。
- 製造者:株式会社サンアクティス
- 元になった研究開発:地域イノベーション戦略支援プログラム(都市エリア型)
- 当該研究開発を行った者:三谷隆彦(医農連携コーディネータ) 他
- 備考:

No2.梅酢ポリフェノール 200 mg含有ハードカプセル

- 具体的内容:2号ゼラチンハードカプセルに賦形剤を混和した梅酢ポリフェノール凍結乾燥粉末原体を入れ、約2万カプセルを製造した。
- ターゲット市場及びその規模:梅酢ポリフェノールのサプリメント開発が目的。市場規模は未定であるが、提携先を模索中
- 製造者:株式会社京都栄養化学研究所
- 元になった研究開発:特願 2008-038748・・・平成25年4月8日特許査定
- 当該研究開発を行った者:三谷隆彦(医農連携コーディネータ)
- 備考:

No3.新商品の名称:梅酢ポリフェノール入り蒲鉾

- 具体的内容:梅酢ポリフェノールを蒲鉾(魚すり身)に0.1%、0.5%配合試作し、配合しない蒲鉾との色、風味、味等について比較した。
- 製造者:株式会社マルサ 代表取締役 左海伸和
- 元になった研究開発:地域イノベーション戦略支援プログラム(都市エリア型)
- 当該研究開発を行った者:会長 左海飢隆
- 備考

No4.新商品の名称:梅酢ポリフェノール入りパン(通称「健康パン」)

- 具体的内容:梅酢ポリフェノールをパン生地に0.6%配合試作し、配合しないものとの色、風味、味等について比較した。特に、乳成分を含まない低カロリーパンへの配合を検討した。
- 製造者:有限会社下津フードサービス ピノキオ 代表取締役 笠畑幸荘
- 元になった研究開発:地域イノベーション戦略支援プログラム(都市エリア型)
- 当該研究開発を行った者:代表取締役 笠畑幸荘
- 備考

No5.八升豆きな粉を主原料としたキューブ状およびシート状食品

- 具体的内容:八升豆を主原料とするパーキンソン病食品の開発を行う目的で、八升豆を粉末化した後、キューブ状およびシート状の試作品を調製した。
- 製造者:株式会社紀州ほそ川
- 元になった研究開発:平成25年未来企業育成事業(地域負担資金)
- 当該研究開発を行った者:代表取締役社長 細川庄三

(7)当該事業により生じた新商品

No1. 試作品の名称:梅酢ポリフェノール入り蒲鉾

- 具体的内容:0.1%梅酢ポリフェノールを配合した蒲鉾を試験的に販売し、市場モニタリングを実施。
- ターゲット市場及びその規模:未知数
- 製造者:株式会社マルサ(田辺市福路町16番)代表取締役 左海伸和

- 元になった研究開発:地域イノベーション戦略支援プログラム(都市エリア型)
- 当該研究開発を行った者:代表取締役 笠畑幸荘
- 備考

(8)当該事業により生じた新事業  
該当なし

(9)当該事業により生じた新企業

No1.企業の名称:株式会社 VS フィット

- 事業内容:食料品製造業(果樹の加工素材及び食品製造、販売)
- 資本金:100万円
- 当該年度の売上げ又はターゲット市場及びその規模:H26 年度稼働、市場 20 億円
- 起業者(氏名ならびに当該事業との関連):井上裕之氏(代表取締役)
- 元になった研究開発:過熱水蒸気加工技術
- 当該研究開発を行った者:岩本博明氏
- 備考

(10)本事業の成果による収入(売上、特許等の実施料収入等を備考に記載)  
該当なし

### 3. 本事業に係る成果の外部への発信

(1)プレス発表

No1.件名:梅酢ポリフェノールの抗ウイルス作用に係る研究結果について

- 発表日:平成 25 年 11 月 8 日
- 内容:梅酢ポリフェノールの抗ウイルス作用についてインフルエンザウイルス等への顕著な作用
- 備考:

(2)成果発表会

No1.発表会名:ifia JAPAN 2013 第 18 回 国際食品素材/添加物展・会議

- 開催日:平成 25 年 5 月 15 日~17 日
- 内容:地域イノベーション戦略支援プログラム事業に関するパネル出展
- 開催場所:東京ビッグサイト
- ブース訪問人数:約 100 人
- 備考

No2.発表会名:わかやま食と健康フェア2013

- 開催日:平成 25 年 10 月 6 日
- 内容:地域イノベーション戦略支援プログラム事業に関するパネル出展、わかやまシニアエクササイズお試し版の開催
- 開催場所:和歌山県和歌山市内 パームシティ和歌山店
- ブース訪問人数:約 200 人
- 備考:わかやまシニアエクササイズお試し版には 37 人が参加

No3.発表会名:アグリビジネス創出フェア2013

- 開催日:平成25年10月23日~25日
- 内容:地域イノベーション戦略支援プログラム事業に関するパネル展示、サンプル展示
- 開催場所:東京ビッグサイト 東6ホール
- ブース訪問人数:約120人
- 備考:

No4.発表会名:平成25年度シンポジウム

- 開催日:平成25年11月26日
- 内容:「健康と食品機能の将来戦略」をテーマに3人の講師先生からのご講演  
地域イノベーション戦略支援プログラム事業の進捗報告
- 開催場所:和歌山県和歌山市内ホテル ホテルグランヴィア和歌山
- 参加人数:106人
- 備考:

No5.発表会名:地域イノベーションシンポジウム2013

- 開催日:平成26年2月12日~13日
- 内容:地域イノベーション戦略支援プログラム事業に関するパネル展示
- 開催場所:愛知県 ポートめっせなごや 交流センター
- ブース訪問人数:約40人
- 備考:

No6.発表会名:和歌山大学地域創造支援機構シンポジウム

- 開催日:平成26年2月12日
- 内容:地域イノベーション戦略支援プログラム事業に関するパネル展示
- 開催場所:和歌山県和歌山市内 フォルテワジマビル
- ブース訪問人数:約50人
- 備考:

No7.発表会名:第5回神戸ビジネスアライアンス

- 開催日:平成26年2月14日
- 内容:地域イノベーション戦略支援プログラム事業に関するパネル展示
- 開催場所:兵庫県 神戸ファッションマート
- ブース訪問人数:約60人
- 備考:

No8.発表会名:平成25年度成果報告会

- 開催日:平成26年3月11日
- 内容:地域イノベーション戦略支援プログラム事業の事業進捗状況報告  
招聘研究員4名、人材育成プログラム研究者2名、地域の研究者3名による発表
- 開催場所:和歌山県和歌山市内ホテル ダイワロイネットホテル和歌山
- 参加人数:129人
- 備考:

(3)論文

- No1.論文名: Phenolics Profile of Mume, Japanese Apricot (*Prunus mume* Sieb. et Zucc.) Fruit  
 ○掲載雑誌名(巻、号、頁): Biosci. Biotechnol. Biochem., 77(8), 1623–1627, 2013  
 ○著作者: Takahiko Mitani(1), Asako Horinishi(1), Kunihiko Kishida(1),  
 Tomoaki Kawabata(1), Fumiko Yano(1), Hisa Mimura(1), Nobuya Inaba(2),  
 Hisako Yamanishi(3), Takaaki Oe(4), Keiichi Negoro(4),  
 Hajime Mori(3), Yasuhito Miyake(3), Asao Hosoda(3),  
 Yoshie Tanaka(3), Megumi Mori(3), and Yoshihiko Ozaki(1)  
 ○備考: (1)近畿大学生物理工学部 (2)和歌山県農産物加工研究所 (3)和歌山県工業技術  
 センター (4)和歌山県果樹試験場
- No2.論文名: ウメ‘露茜’果実の熟度と着果条件がアントシアニンの蓄積およびその他の機能  
 性成分含量に及ぼす影響  
 ○掲載雑誌名(巻、号、頁): 園学研.(Hort. Res.(Japan)) 12(4):411–418 2013.  
 ○著作者: 大江孝明(1,2), 竹中正好(1), 櫻井直樹(2), 根来圭一(1), 古屋拳幸(1),  
 岡室美絵子(1), 土田靖久(1)  
 ○備考: (1)和歌山県果樹試験場うめ研究所 (2)広島大学大学院生物圏科学研究所
- No3.論文名: 梅果汁成分による抗疲労効果(第2報)  
 ○掲載雑誌名(巻、号、頁): 果汁協会報. No.656 4月号, 1–7 2013.  
 ○著作者: 佐藤夏海(1), 高橋齊(1), 坂井田和裕(1), 高田善浩(2), 矢野史子(3),  
 荒木章吾(3), 藤田勝也(3), 白木琢磨(3), 志賀勇介(3), 岸田邦博(3),  
 山西妃早子(4), 福西伸一(5), 三谷隆彦  
 ○備考: (1)ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社中央研究所 (2)サッポロ飲料株式会  
 社 R&D センター (3)近畿大学生物理工学部 (4)和歌山県工業技術センター (5)プ  
 ラム食品株式会社
- No4.論文名: Are Umezu polyphenols in the Japanese plum (*Prunus mume*) protective against  
 mild hypertension and oxidation? Evidence from a double-blind randomized  
 placebo-controlled trial  
 ○掲載雑誌名(巻、号、頁): Open Journal of Preventive Medicine doi:10.4236/opjm.2013.  
 ○著作者: Shigeki Takemura(1), Kouichi Yoshimasu(1), Kanae Mure(1),  
 Jin Fukumoto(1), Nobuhiro Nishio(1), Naomi Kitano(1),  
 Kunihiko Kishida(2), Fumiko Yano(2), Takahiko Mitani(2)(3),  
 Tatsuya Takeshita(1), Kazuhisa Miyashita(1)  
 ○備考: (1)和歌山県立医科大学 (2)近畿大学生物理工学部 (3)わかやま産業振興財団
- No5.論文名: Lacto-N-biosidase encoded by a novel gene of *Bifidobacterium longum* subsp. *L*  
*ongum* shows unique substrate specificity and requires a designated chaperon for  
 its active expression.  
 ○掲載雑誌名(巻、号、頁): *J. Biol. Chem.* 288(35) 25194–25296. 2013年7月  
 ○著作者: Sakurama H, Kiyohara M, Wada J, Honda Y, Yamaguchi M, Fukiya S,  
 Yokota A, Ashida H, Kumagai H, Kitaoka M, Yamamoto K, Katayama T  
 ○備考:
- No6.論文名: Deficiency of  $\alpha$ -glucosidase I alters glycoprotein glycosylation and lifespan in  
*Caenorhabditis elegans*.  
 ○掲載雑誌名: *Glycobiology* 23(19), 1142–1151. 2013年7月  
 ○著作者: Katoh T, Takase J, Tani Y, Amamoto R, Aoshima N, Tiemeyer M,



Yamamoto K, Ashida H

○備考:

No7.論文名: Crystal structures of a glycoside hydrolase family 20 lacto-*N*-biosidase from *Bifidobacterium bifidum*.

○掲載雑誌名: *J. Biol. Chem.* 288(17) 11795–11806. 2013年4月

○著作者: Ito T, Katayama T, Hattie M, Sakurama H, Wada J, Suzuki R, Ashida H, Wakagi T, Yamamoto K, Stubbs KA, Fushinobu S

○備考:

No8.論文名: Identification and characterization of endo- $\beta$ -N-acetylglucosaminidase from methylotrophic yeast *Ogataea minuta*.

○掲載雑誌名: *Glycobiology* 23(6) 736–744. 2013年3月

○著作者: Murakami S, Takaoka Y, Ashida H, Yamamoto K, Narimatsu H, Chiba Y

○備考:

No9.論文名: Protein profiles of peripheral blood mononuclear cells as a candidate biomarker for Bechet's disease.

○掲載雑誌名: *Clin Exp. Rheumatol.* 2013, in press.

○著作者: Yoshioka T, Kurokawa MS, Sato T, **Nagai K**, Iizuka N, Arito M, Takakuwa Y, Nakano H, Ooka S, Suematsu N, Okamoto K, Yudph K, Nakamura H, Suzuki N, Ozaki S, Kato T

○備考:

No10.論文名: Roles of serum fibrinogen arufa chain-derived peptudes in Alzheimer's disease.

○掲載雑誌名: *Int. J. Geriatr Psychiatry* 2013, in press.

○著作者: Noguchi M, Sato T, **Nagai K**, Utagawa I, Suzuki I, Arito M, Iizuka N, Suematsu N, Okamoto K, Kato T, Yamaguchi N, Kurokawa MS.

○備考:

No11.論文名: Comparative proteomic analysis of neutrophils from patients with microscopic polyangiitis and granulomatosis with polyangiitis.

○掲載雑誌名: *J. Proteomics* 2013, 91, 259–269.

○著作者: Uchida T, **Nagai K**, Sato T, Iizuka N, Arito M, Takakuwa Y, Nakano H, Ooka S, Kurokawa MS, Suematsu N, Okamoto K, Ozaki S, Kato T.

○備考:

No12.論文名: Investigation of proteomic profiles of Laina of *Ecklonia kurome* (Laminariales): homology-based cross-species protein identification and analysis of the post-translational processing of vanadium-dependent bromoperoxidases using MALDI-TOF/TOF.

○掲載雑誌名: *Mar Biotechnol* (NY). 2013 Aug;15(4):487–98.

○著作者: **Nagai K**, Morimoto K, Ikegami H, Kimura H, Yotsukura N.

○備考:

No13. 論文名: Serum peptides, represented by complement 3f des-arginine, are useful for prediction of the response to pegylated interferon- $\alpha$  plus ribavirin in patients with chronic hepatitis C.

- 掲載雑誌名: Hepatol Res. 2013, 43, 743-756.
- 著作者: Noguchi Y, Kurokawa MS, Okuse C, Matsumoto N, Nagai K, Sato T, Arito M, Suematsu N, Okamoto K, Suzuki M, Itoh F, Kato T.
- 備考:

No14.論文名: Elevated Serum Immunoglobulin G4 Levels in Patients with Graves' Disease and Their Clinical Implications.

- 掲載雑誌名: Thyroid. 2014 Jan 24. [Epub ahead of print]
- 著作者: Takeshima K, Inaba H, Furukawa Y, Nishi M, Yamaoka H, Miyamoto W, Ota T, Doi A, Kawashima H, Ariyasu H, Wakasaki H, Furuta H, Nakao T, Sasaki H, Akamizu T
- 備考:

No15.論文名: Transactivation by Hesperetin Glucuronides is Distinct from That by a Thiazolidine-2,4-dione Agent.

- 掲載雑誌名: CHEM.PHARM.BULL., 2014, in press
- 著作者: Kanae Gamo, K., Shiraki, T., Matsuura, N., and Miyachi, H.
- 備考:

No16.論文名: Inhibition by Caffeic Acid of the Influenza A Virus Multiplication in vitro. (インビトロにおけるインフルエンザウイルス増殖のカフェ酸による阻害)

- 掲載雑誌名: International Journal of Molecular Medicine (印刷中)
- 著作者: Utsunomiya H, Ichinose M, Ikeda K, Uozaki M, Morishita J, Kuwahara T, Koyama AH and Yamasaki H.
- 備考:

No17.論文名: 高齢者の健康教育における運動と食事のコンビネーションの重要性と指導方法について

- 掲載雑誌名: 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要 2013. 122-127
- 著作者: 木場田昌宜、本山貢、松本裕樹
- 備考:

#### (4) プロシーディング等

No1.名称: Glucosamine as an Autophagy Inducer.

- 掲載誌名: Functional and Medical Foods with Bioactive Compounds: Science and Practical Application, Vol. 13. Ed., H. Nishino, T. Yoshikawa and D. Martirosyan, Functional Food Center (TX, USA), pp. 58-59. 2013年5月
- 著作者: Ashida H
- 備考:

#### (5) 学会・会議発表

No1.発表テーマ: MTHFR 遺伝子ヘテロ型のメタボリックシンドローム・動脈硬化指標への影響

- 国内
- 学会名: 第12回分子予防環境医学研究会
- 発表日: 平成24年2月1日
- 発表者名: 牟礼佳苗(1), 橋本磨和(1), 服部園美(2), 岩原昭彦(2), 有田幹雄(2),

竹下達也(1)

○備考:(1)和医大・公衆衛生学, (2)和医大・保健看護学部

No2.発表テーマ:高齢者における eNOS および MTHFR 遺伝子型と動脈硬化指標との関連性

○国内

○学会名:第 83 回日本衛生学会学術総会

○発表日:平成 25 年 3 月 26 日

○発表者名:橋本麿和(1), 牟礼佳苗(1), 服部園美(2), 岩原昭彦(2), 有田幹雄(2),  
竹下達也(1)

○備考:(1)和医大・公衆衛生学, (2)和医大・保健看護学部

No3.発表テーマ:梅酢ポリフェノールのマクロファージにおける抗炎症作用の解析

○国内

○学会名:平成 25 年度日本農芸化学会

○発表日:平成 25 年 3 月 28 日

○発表者名:小佐田翔平, 森尾大地, 武本淳史, 堀西朝子, 三谷隆彦, 永井宏平

No4.発表テーマ:血清のプロテオーム解析による黒毛和種牛の脂肪交雑度を診断するバイオマーカーの探索

○国内

○学会名:平成 25 年度日本農芸化学会

○発表日:平成 25 年 3 月 29 日

○発表者名:赤尾大樹, 池上春香, 松橋珠子, 武本淳史, 永井宏平, 樋口智香,  
守田昂太郎, 小林直彦, 松本和也

No5.発表テーマ:健康で長生き

○国内

○講演名:紀北分院健康講座(大谷公民館)

○発表日:平成 25 年 4 月 15 日

○発表者名:有田幹雄 和歌山県立医科大学

No6 発表テーマ:ベーチェット病患者の末梢血単核球に発現している蛋白質の網羅的な解析

○国内

○学会名:第 57 回日本リウマチ学会学術集会

○発表日:平成 25 年 4 月 18 日

○発表者名:黒川真奈絵、吉岡拓也、佐藤利行、永井宏平、飯塚進子、有戸光美、  
高桑由希子、中野弘優、大岡正道、岡本一起、中村洋、鈴木登、尾崎承一、  
加藤智啓

No7.発表テーマ:ANCA 関連血管炎患者における好中球ミエロペルオキシダーゼの酸化修飾

○国内

○学会名:第 57 回日本リウマチ学会学術集会

○発表日:平成 25 年 4 月 18 日

○発表者名:永井宏平、内田貞輔、高桑由希子、大岡正道、有戸光美、佐藤利行、  
黒川真奈絵、岡本一起、加藤智啓

No8.発表テーマ:関節リウマチにおける糖蛋白質の糖鎖構造の変異

○国内

- 学会名: 第 57 回日本リウマチ学会学術集会
- 発表日: 平成 25 年 4 月 19 日
- 発表者名: 佐藤利行、高桑由希子、大岡正道、永井宏平、有戸光美、飯塚進子、黒川真奈絵、岡本一起、加藤智啓

No9.発表テーマ: Glucosamine as an Autophagy Inducer

- 国内
- 学会名: 13th International Conference of Functional Food Center (Invited lecture)  
京都府立医科大学(京都市)
- 発表日: 平成 25 年 5 月 12 日
- 発表者名: Hisashi Ashida

No10.発表テーマ: 健康で長生き

- 国内
- 講演名: 紀北分院健康講座(妙寺公民館)
- 発表日: 平成 25 年 5 月 13 日
- 発表者名: 有田幹雄 和歌山県立医科大学

No11.発表テーマ: 健康で長生き

- 国内
- 講演名: 紀北分院健康講座(笠田ふるさと交流館)
- 発表日: 平成 25 年 5 月 17 日
- 発表者名: 有田幹雄 和歌山県立医科大学

No12.発表テーマ: 健康講話

- 国内
- 講演名: かつらぎ町高齢者サロン
- 発表日: 平成 25 年 6 月 12 日
- 発表者名: 岡檀 和歌山県立医科大学

No13.発表テーマ: Identification and characterization of endo- $\beta$ -*N*-acetylglucosaminidase from methylotrophic yeast *Ogataea minuta* (Poster 245)

- 海外
- 学会名: Glyco 22 Dalian, China
- 発表日: June 23-28, 2013
- 発表者名: Satoshi Murakami, Yuki Takaoka, Hisashi Ashida, Kenji Yamamoto, Hisashi Narimatsu, Yasunori Chiba

No14.発表テーマ: グルコサミンによるオートファジー誘導と寿命への効果

- 国内
- 学会名: 平成 25 年度 日本応用糖質科学会東日本支部シンポジウム  
『適正な生活習慣をサポートする糖質機能』  
東京大学農学部 弥生講堂(東京都文京区)
- 発表日: 平成 25 年 7 月 25 日
- 発表者名: 芦田 久

No15.発表テーマ: 健康寿命を伸ばす食品の秘密

○国内

○講演名:平成 25 年度第 9 回近畿大学生物理工学部公開講座 Bost Science Cafe

近畿大学生物理工学部(和歌山県紀の川市)

○発表日:平成 25 年 8 月 4 日

○発表者名:芦田 久

No16.発表テーマ:酵母由来 endo- $\beta$ -N-acetylglucosaminidase の遺伝子クローニングおよび諸性質の解析

○国内

○学会名:第 32 回日本糖質学会年会 大阪国際交流センター(大阪市天王寺区)

○発表日:平成 25 年 8 月 5~7 日

○発表者名:村上智史、高橋佳江、高岡友紀、芦田 久、山本憲二、成松 久、千葉靖典

No17.発表テーマ:牛血清のプロテオーム解析を用いた BMS ナンバーに関わるバイオマーカータンパク質の探索

○国内

○学会名:平成25年度日本畜産学会関西支部会

○発表日:平成 25 年 9 月 5 日

○発表者名:池上春香, 松橋珠子, 武本淳史, 永井宏平, 樋口智香, 守田昂太郎, 小林直彦, 加藤博己, 松本和也

No18.発表テーマ:高血圧は万病のもと

○国内

○講演名:かつらぎ健康講座

○発表日:平成 25 年 9 月 6 日

○発表者名:有田幹雄 和歌山県立医科大学

No19.発表テーマ:Serum Peptides, Represented by Complement 3f Des-Arginine, Are Useful for Prediction of the Response to Pegylated Interferon- $\alpha$ Plus Ribavirin in Patients with Chronic Hepatitis C

○海外

○学会名:HUPO2013

○発表日:September 15, 2013

○発表者名:Yohei Noguchi, Manae S. Kurokawa, Chiaki Okuse, Nobuyuki Matsumoto, Kouhei Nagai, Toshiyuki Sato, Mitsumi Arito, Naoya Suematsu, Kazuki Okamoto, Michihiro Suzuki, Fumio Itoh, Tomohiro Kato

No20.発表テーマ:Comparative Proteomic Analysis of Neutrophils from Patients with Microscopic Polyangiitis and Granulomatosis with Polyangiitis

○海外

○学会名:HUPO2013

○発表日:September 15, 2013

○発表者名:Teisuke Uchida, Kouhei Nagai, Toshiyuki Sato, Nobuko Iizuka, Mitsumi Arito, Yukiko Takakuwa, Hirosama Nakano, Seido Ooka, Manae Kurokawa, Naoya Suematsu, Kazuki Okamoto, Shoichi Ozaki, Tomohiro Kato

No21.発表テーマ:Biomarker Discovery from Low Abundance Proteins in Bovine Serum;

Proteomics for Developing Beef Production Systems

- 海外
- 学会名:HUPO2013
- 発表日:September 15, 2013
- 発表者名:Haruka Ikegami, **Kouhei Nagai**, Atsushi Takemoto, Natsumi Shimizu, Kohtaro Morita, Chika Higuchi, Tamako Matsuhashi, Naohiko Kobayashi, Kazuya Matsumoto

No22.発表テーマ:Identification of Proteins Related to Accumulation of Intramuscular Fat in Japanese Black by Proteomic Analysis

- 海外
- 学会名:HUPO2013
- 発表日:September 15, 2013
- 発表者名:Atsushi Takemoto, Kouhei Nagai, Haruka Ikegami, Natsumi Shimizu, Kohtaro Morita, Chika Higuchi, Eiji Kobayashi, Kazuya Matsumoto

No23.発表テーマ:Protein Profiles of Peripheral Blood Mononuclear Cells as a Biomarker for Behcet's Disease

- 海外
- 学会名:HUPO2013
- 発表日:September 16, 2013
- 発表者名:Takuya Yoshioka, Manae S. Kurokawa, Toshiyuki Sato, **Kouhei Nagai**, Nobuko Iizuka, Mitsumi Arito, Yukiko Takakuwa, Hiromasa Nakano, Seido Ooka, Naoya Suematsu, Kazuki Okamoto

No24.発表テーマ:Comprehensive Analysis of Aberrantly Glycosylated Proteins in Rheumatoid Arthritis

- 海外
- 学会名:HUPO2013
- 発表日:September 16, 2013
- 発表者名:Toshiyuki Sato, Mitsumi Arito, Manae S. Kurokawa, Yukiko Takakuwa, Seido Ooka, **Kouhei Nagai**, Hiroshi Nakamura, Nobuko Iizuka, Naoya Suematsu, Kazuki Okamoto, Tomohiro Kato

No25.発表テーマ:Proteomic analysis of bovine serum: Discovery of biomarker proteins evaluating carcass and meat quality traits in Japanese Black beef cattle.

- 海外
- 学会名:Animal Science Day 2013
- 発表日:September 19, 2013
- 発表者名:**Kouhei NAGAI**, Haruka IKEGAMI, Atsushi TAKEMOTO, Natsumi SHIMIZU, Kohtaro MORITA, Chika HIGUCHI, Eiji KOBAYASHI and Kazuya MATSUMOTO

No26.発表テーマ:Proteomic analysis of muscle tissue for discovery of proteins related to accumulation of intramuscular fat in beef cattle

- 海外
- 学会名:Animal Science Day 2013
- 発表日:September 19, 2013
- 発表者名:Atsushi TAKEMOTO, **Kouhei NAGAI**, Haruka IKEGAMI, Natsumi SHIMIZU,

No27.発表テーマ:INHIBITORY EFFECTS OF PHENOLIC EXTRACTS DERIVED FROM  
JAPANESE APRICOT FRUIT (PRUNUS MUME) ON RAT SMALL  
INTESTINAL DISACCHARIDASE ACTIVITIES

- 海外
- 学会名:20th International Congress of Nutrition
- 発表日:September 19, 2013
- 発表者名:K. Kishida, Y. Heya, Y. Yamazaki, A. Horinishi, Y. Oza-ki

No28.発表テーマ:Social capital and suicide in Japan; Study of the area with low suicide rates

- 海外
- 講演名:Workshop and AKC-visit
- 発表日:September 19-20, 2013
- 発表者名:岡檀 和歌山県立医科大学

No29.発表テーマ:Measurement of serum IgG4 concentrations in patients with Graves'  
disease; clinical characteristics of those with elevated IgG4 levels

- 海外, San Juan, Puerto Rico
- 会議名:83rd Annual Meeting of the ATA
- 発表日:October 17, 2013
- 発表者名:Ken Takeshima

No30.発表テーマ:薬物治療を受けていない高血圧患者における梅酢ポリフェノールの降圧作用:予備試験

- 国内
- 学会名:第72回日本公衆衛生学会総会
- 発表日:平成25年10月25日
- 発表者名:竹村重輝, 吉益光一, 福元仁, 北野尚美, 西尾信宏, 牟礼佳苗, 竹下達也, 有田幹雄, 宮下和久

No31.発表テーマ:和歌山県立医科大学が行う「食による元気社会推進プログラム」

- 国内
- 学会名:第72回日本公衆衛生学会総会
- 発表日:平成25年10月23日~25日
- 発表者名:岡檀 和歌山県立医科大学

No32.発表テーマ:和歌山県特産果樹を利用した機能性食品の研究開発

- 国内
- 講演名:アグリビジネス創出フェア2013
- 発表日:平成25年10月23日
- 発表者名:三谷隆彦 わかやま産業振興財団

No33.発表テーマ:頸動脈プラークを認める者の生活習慣病因子の特徴  
—和歌山県かつらぎ町の住民検診結果から—

- 国内
- 学会名:第36回日本高血圧学会総会
- 発表日:平成25年10月25日

○発表者名：岡檀、田中寛人、高橋真麻、長野汐梨、宮井信行、内海みよ子、有田幹雄  
和歌山県立医科大学

No34.発表テーマ：和歌山県山間部と海岸地域における食生活と血圧の地域差

○国内

○学会名：第 36 回日本高血圧学会総会

○発表日：平成 25 年 10 月 25 日

○発表者名：長野汐梨，高橋真麻，宮井信行，内海みよ子，志波充，岡檀，有田幹雄  
和歌山県立医科大学

No35.発表テーマ：梅酢ポリフェノールのもつ抗ウイルス活性の解析

○国内

○学会名：第 61 回日本ウイルス学会学術集会

○発表日：平成 25 年 11 月 11 日

○発表者名：月城紗希子<sup>1)</sup>、辻本和子<sup>1)</sup>、西出充徳<sup>1)</sup>、池田敬子<sup>2)</sup>、山崎 尚<sup>3)</sup>、  
小山 一<sup>1)</sup>

○備考：<sup>1)</sup>和歌山信愛女子短大・食物栄養、<sup>2)</sup>和歌山県立医大・保健看護、  
<sup>3)</sup>和歌山県立医大・医、

No36.発表テーマ：食品由来成分によるウイルスの不活化

○国内

○学会名：第 61 回日本ウイルス学会学術集会

○発表日：平成 25 年 11 月 11 日

○発表者名：西出充徳<sup>1)</sup>、辻本和子<sup>1)</sup>、池田敬子<sup>2)</sup>、魚崎 操<sup>3)</sup>、月城紗希子<sup>1)</sup>、小山 一<sup>1)</sup>

○備考：<sup>1)</sup>和歌山信愛女子短大・食物栄養、<sup>2)</sup>和歌山県立医大・保健看護、  
<sup>3)</sup>日赤・和歌山医療センター

No37.発表テーマ：マウス始原生殖細胞で発現する GSE タンパク質の能動的 DNA 脱メチル化への関与

○国内

○学会名：平成 25 年度日本分子生物学会

○発表日：平成 25 年 12 月 3 日

○発表者名：守田 昂太郎，畑中 勇輝，清水 なつみ，西原 卓司，武本 淳史，樋口 智香，  
内堀 翔，天野 朋子，永井宏平，岸上 哲士，加藤 博己，三谷 匡，  
細井 美彦，松本 和也

No38.発表テーマ：マウス初期胚における転写開始機構へのユビキチン・プロテアソーム系の関与

○国内

○学会名：平成 25 年度日本分子生物学会

○発表日：平成 25 年 12 月 3 日

○発表者名：清水 なつみ，畑中 勇輝，樋口 智香，西原 卓志，武本 淳史，守田 昂太郎  
内堀 翔，永井 宏平，天野朋子，岸上 哲士，安齋 政幸，細井 美彦，  
松本 和也

No39.発表テーマ：トランスジェニックマウスを用いた卵母細胞特異的発現遺伝子 Histone H1oo のプロモーター解析

○国内

○学会名：平成 25 年度日本分子生物学会

○発表日：平成 25 年 12 月 3 日

○発表者名：内堀 翔，清水 なつみ，畑中 勇輝，西原 卓志，武本 淳史，樋口 智香，



守田 昂太郎, 永井 宏平, 天野 朋子, 岸上 哲士, 細井 美彦, 松本 和也

No40.発表テーマ: マウス 2 細胞期胚におけるユビキチン・プロテアソーム系の役割

○国内

○学会名:平成 25 年度日本分子生物学会

○発表日:平成 25 年 12 月 3 日

○発表者名:樋口 智香, 清水 なつみ, 畑中 勇輝, 西原 卓志, 武本 淳史, 守田 昂太郎,  
内堀 翔, 永井 宏平, 天野 朋子, 岸上 哲士, 細井 美彦, 松本 和也

No41.発表テーマ: 地域特性を活かした多目的コホート研究の展開

—地域のために、地域とともに—

○国内

○講演名:御坊市保健師集会

○発表日:平成 25 年 12 月 6 日

○発表者名:有田幹雄 和歌山県立医科大学

No42.発表テーマ: 食品由来オートファジー誘導物質の寿命への効果

○国内

○学会名:第 11 回果実酒・果実飲料と健康に関する研究会(基調講演)

近畿大学 和歌山キャンパス(和歌山県紀の川市)

○発表日:平成 25 年 12 月 7 日

○発表者名:芦田 久

No43.発表テーマ: 薬物治療を受けていない高血圧患者における梅酢ポリフェノールの降圧作用:12 週間の予備試験

○国内

○学会名:第 11 回果実酒・果実飲料と健康に関する研究会

○発表日:平成 25 年 12 月 7 日

○発表者名:竹村重輝, 吉益光一, 福元仁, 北野尚美, 西尾信宏, 牟礼佳苗, 岸田邦博,  
矢野史子, 三谷隆彦, 竹下達也, 有田幹雄, 宮下和久

No44.発表テーマ: 光イメージング技術を用いた機能性食品成分の生理機能の分析

○国内

○会議名:医農連携セミナーin 和医大

○発表日:平成 25 年 12 月 9 日

○発表者名:井原勇人 和歌山県立医科大学

No45.発表テーマ: 和歌山県における機能性食品開発プロジェクトの紹介

○国内

○会議名:平成 25 年度地域産学連携支援委託事業 事業可能性調査

「太陽光利用型植物工場を利用した亜麻周年栽培方法の可能性調査」

第 2 回検討会

○発表日:平成 25 年 12 月 10 日

○発表者名:前田育克 わかやま産業振興財団

No46.発表テーマ: バイオ分野に取り組んでいる機関からの事例発表

○国内

- 会議名:新産業分野へのチャレンジ
- 発表日:平成 25 年 12 月 12 日
- 発表者名:三谷隆彦 わかやま産業振興財団

No47.発表テーマ:和歌山の健康状態の現状報告

- 国内
- 学会名:県・医科大学連絡協議会
- 発表日:平成 26 年 12 月 25 日
- 発表者名:岡檀、有田幹雄 和歌山県立医科大学

No48.発表テーマ:心地良く生きる知恵が自殺を防ぐ

- 国内
- 講演名:和歌山自殺対策情報センター専門部会
- 発表日:平成 26 年 1 月 30 日
- 発表者名:岡檀 和歌山県立医科大学

No49.発表テーマ:和歌山の梅、そのポリフェノール成分について

- 国内
- 学会名:第 13 回分子予防環境医学研究会
- 発表日:平成 26 年 1 月 31 日
- 発表者名:三谷隆彦 わかやま産業振興財団

No50.発表テーマ:尿中エクソソームおよび内包 miRNA のバイオマーカーとしての可能性

- 国内
- 学会名:第 13 回分子予防環境医学研究会
- 発表日:平成 26 年 1 月 31 日
- 発表者名:牟礼佳苗(1), 橋本磨和(1), 渡部益隆(1), 服部園美(2), 上松右二(2), 有田幹雄(2), 竹下達也(1)
- 備考:(1)和医大・公衆衛生学, (2)和医大・保健看護学部

No51.発表テーマ:eNOS のプロモーター活性に対するエストロゲンの影響

- 国内
- 学会名:第 13 回分子予防環境医学研究会
- 発表日:平成 26 年 1 月 31 日
- 発表者名:橋本磨和(1), 牟礼佳苗(1), 竹下達也(1) 和医大・公衆衛生学

No52.発表テーマ:p-クマル酸によるラット肝臓脂質代謝関連遺伝子発現の変動

- 国内
- 学会名:第 13 回分子予防環境医学研究会
- 発表日:平成 26 年 1 月 31 日
- 発表者名:岸田邦博 1), 鈴木雅也 1), 井原勇人 2)
- 備考:1)近畿大学生物理工学部食品安全工学科, 2)和歌山県立医科大学医学部 RI 実験施設

No53.発表テーマ:メンタルヘルスについて(自殺予防の研究から)

- 国内
- 講演名:伊都保健師業務研究会
- 発表日:平成 26 年 2 月 4 日

○発表者名:岡檀 和歌山県立医科大学

No54.発表テーマ:高血圧は万病のもと

○国内

○講演名:かつらぎ健康塾

○発表日:平成26年2月7日

○発表者名:有田幹雄 和歌山県立医科大学

No55.発表テーマ:コミュニティから始まる、健康長寿のまちづくり

○国内

○講演名:市町村健康づくり担当者研修会

○発表日:平成26年2月13日、27日

○発表者名:岡檀 和歌山県立医科大学

No56.発表テーマ:高血圧と生活習慣病について

○国内

○講演名:紀北分院健康講座

○発表日:平成26年2月20日

○発表者名:有田幹雄 和歌山県立医科大学

No57.発表テーマ:コミュニティ特性とメンタルヘルス—ソーシャル・キャピタルと自殺—

○国内

○講演名:島根大学疾病予知予防プロジェクトセンター公開講演会

○発表日:平成26年2月21日

○発表者名:岡檀 和歌山県立医科大学

No58.発表テーマ:梅に含まれるポリフェノールとインフルエンザ予防

○国内

○会議名:ベターホーム協会

○発表日:平成26年2月28日

○発表者名:三谷隆彦 わかやま産業振興財団

No59.発表テーマ:梅酢由来ポリフェノール調製物(UP)の構成化合物の解明

○国内

○学会名:日本農芸化学会2014年度大会

○発表日:平成26年3月30日

○発表者名:堀西朝子、葛巻里紗、部屋雄一、多中良栄、三宅靖仁、高垣昌史、森一、岸田邦博、尾崎嘉彦

No60.発表テーマ:IgG4値高値を示すバセドウ病と橋本病のサイトカイン・ケモカイン値

○国内

○学会名:内分泌学会学術総会

○発表日:2014年4月24日

○発表者名:竹島 健

○備考:

#### 4. 本事業がもたらした効果など

(1)新聞

No1.新聞名:日高新報

○報道年月日:平成25年9月19日

○内容:梅酢ポリフェノール調査による高血圧の改善効果実証へ

○備考:和歌山県立医科大学が行うみなべ町住民を対象とした調査

No2.新聞名:紀州新聞

○報道年月日:平成25年9月20日

○内容:梅酢ポリフェノール降血圧効果調査

○備考:和歌山県立医科大学が行うみなべ町住民を対象とした調査

No3.新聞名:紀伊民報

○報道年月日:平成25年9月21日

○内容:梅酢ポリフェノール高血圧への効果検証への再調査

○備考:和歌山県立医科大学が行うみなべ町住民を対象とした調査

No4.新聞名:広報かみとんだ

○報道年月日:平成25年11月

○内容:上富田町における動脈硬化健診を終えて

○備考:和歌山県立医科大学が行う上富田町住民を対象とした調査

No5.新聞名:紀伊民報

○報道年月日:平成25年11月8日

○内容:梅酢の成分がインフルエンザに効果、ウイルスの増殖抑制

○備考:梅酢ポリフェノールの抗ウイルス作用

No6.新聞名:読売新聞

○報道年月日:平成25年11月9日

○内容:梅酢ポリフェノール安全性の高さ確認

○備考:梅酢ポリフェノールの抗ウイルス作用

No7.新聞名:朝日新聞

○報道年月日:平成25年11月15日

○内容:梅酢抽出ポリフェノールのインフルエンザウイルス抑制作用

○備考:梅酢ポリフェノールの抗ウイルス作用

No8.新聞名:日本農業新聞

○報道年月日:平成25年11月17日

○内容:梅酢でインフル抑制

○備考:梅酢ポリフェノールの抗ウイルス作用

No9.新聞名:産経新聞

○報道年月日:平成25年11月28日

○内容:インフルウイルスの増殖抑える効果

○備考:梅酢ポリフェノールの抗ウイルス作用

No10.新聞名:紀伊民報

○報道年月日:平成26年2月11日

○内容: インフルエンザウイルスを抑制する錠剤開発

○備考: 梅酢ポリフェノールの抗ウイルス作用

(2) 放送

該当なし

(3) 雑誌

該当なし

(4) 受賞

該当なし

(5) 成果が他事業に採択

No1.事業名: 平成24年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業(農林水産省)

○採択時期: 平成25年6月から3年間

○事業主体及び内容: 和歌山県、中野BC(株) JAみなみいなみ 他機関

「露茜」の多収安定生産技術及び高品質果実の安定供給技術の開発

商品化に向けた加工技術開発及び高付加価値化に向けた生理機能特性の解明

果実の安定供給に向けた現地実証及び市場拡大に向けた試作品開発

○備考:

(6) 外部団体の来訪

No1.来訪団体: 公益財団法人えひめ産業振興財団 えひめ水産イノベーション創出地域

○来訪年月日: 平成25年10月8日

○来訪者及び来訪者数: プロジェクトディレクター、地域連携コーディネータ 計2名

○備考: